



コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

「私たち病院／介護施設は生き残れるのか？」 学術運動交流集会記念講演

倉敷中央病院 救急科 部長 田村暢一朗

第44回岡山県民医連学術運動交流集会にて記念講演をさせていただきました。タイトルは「私

たち病院／介護施設は生き残れるのか？」でした。日本は病棟を急性期／回復



岡山県民医連会長として「生活視点」を持った医療提供に共鳴した水島協同病院の山本院長。田村先生からは救急について患者さんの先を見越せる「最初的一步」を担える病院として期待を表明。



日本医療福祉社協連会長として職員の健康も保証する社会保障充実を説く岡山協立病院の高橋院長。それに田村先生からは医師の偏在を効率性をもとに公的立場から再配置する提言が紹介されました。

期／慢性期に区分してはいますが、この区分では増加する高齢者医療のニーズに対応できていません。その中で約4000の急性期病院を緊急手術や集中治療を行う約500の急性期病院と地域での医療トラブル（肺炎など）に対応する約3500の地域急性期病院に分ける動きがあります。地域急性期病院に求められるのは「病気を治す」でなく、「病気を治し、在宅で自己満足度の高い生活を送らせる」ことです。これには急性期スタッフが、一人一人異なる患者生活を認識し、もともとの生活機能を院内でも発揮できる院内生活を提

供することが必要です。例えば、畑仕事をしていた患者さんに対しては、用紙に書いた畑の地図上で、「〇月にはこの辺りにこの野菜を植える」などコミュニケーションを行ったり、会話の中に野菜の調理の仕方などを入れるなどです。こういった介入により患者さんは戻すべき自分の生活を認識し、そこに戻るためのリハビリ、ケアに積極的に取り組めるのでは？と考えています。

8月に「脳卒中連携を考える会2023報告」なる会2023」にパネリストとして参加しました。この会は川崎医科大学附属病院脳卒中センター（八木田センター長）が主催された特別講演「脳動脈瘤に対する外科的治療アプローチ」(同脳神経外科 菱川教授)に続き、連携病院として発表しました。



ツール（図中タブレット）のコンセプトは、どの職種もこれをみれば「自分がすべきことがわかる」です。

内容は複合した病気が「生活」に及ぼす影響を各専門職が共有するツールの紹介です。回復期リハビリテーション病棟は病気の検査値だけ、リハで歩けるだけ、看護でケアだけで自宅退院できるほど甘くありません。

「生活できる」がゴールだからです。そこです「生活」の課題をみつけて各専門職の「実行項目」を明確にします。これをITで構

造化し「成果」として見える化するのが一連のプロセスです。コンセプトは「これをみれば自分がすべきことがわかる」です。そしてみんなの「やってみよう」というメッセージも込められています。

私達は常に自身の伴うチームでありたいと思っています。何故なら「本人が望む場所です生活すること」の実現は容易ではないからです。（コープリハビリテーション病院 回復期リハビリ病棟 師長 山田小百合）



講師の田村先生（以下の説明文は発行者）



会場のコンベックス岡山には県内医療機関など65事業所から参加

「私たち病院／介護施設は生き残れるのか？」急性期という箱庭から飛び出して見えた景色

「生活できる」がゴールだからです。そこです「生活」の課題をみつけて各専門職の「実行項目」を明確にします。これをITで構

造化し「成果」として見える化するのが一連のプロセスです。コンセプトは「これをみれば自分がすべきことがわかる」です。そしてみんなの「やってみよう」というメッセージも込められています。

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。



県内の高校生の皆さんとスタッフの集合写真



安全な移動獲得に何が最適か様々な補助具で実体験

今回は普通科高校から9名の参加があり、すでに看護大学への進学を決めている高校生もいました。将来何になりたいの

春・夏と恒例になっている「高校生1日医療体験」を8月17日に実施しました。体験内容は、施設見学や簡単な看護体験、リハビリ体験を通じて、看護の仕事を知り、医療の道へ進むきっかけとなることを目的に実施しています。

3階病棟 副主任 水島智重

か迷っている高校生も沢山参加してました。そこで恒例の看護師体験だけではなく、病院で働く他職種についての紹介や、事前に沢山の質問を頂いていたので、質疑応答の時間を多めに設けるなど、高校生にとって有意義な時間になることを願いました。

高校生1日医療体験



倉敷中央病院リバーサイドの平川MSW(左)と大島MSW(右)

倉敷中央病院リバーサイドより平川MSW、大島MSWが来訪され、当院より鍛本院長、山田師長、MSW中曾と面談しました。

院後予想以上に回復され退院する姿に驚きと、当院のリハビリテーション医療に信頼を寄せていただいているとお話をいただきました。倉敷中央病院リバーサイドでは地域包括ケア病棟で一定期間リハビリが可能ですが、疾患や病態によっては回復期リハビリ病棟の専門的リハビリが必要な方もおられるとのことでした。

倉敷中央病院リバーサイドより医療連携訪問②

看護部長紹介



看護部長 庄司 真樹子

令和5年4月からコープリハビリテーション病院・老健あかねの看護部長をさせていただいております。庄司真樹子と申します。

私は、うちの病院の代名詞といってもいい「建物丸ごとリハビリ」と言う言葉が好きです。皆様が望む場所、満足度の高い生活を送れるようになりハビリやケアを私たちに手伝わせたいただきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。



〇お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212(代表)
受付時間 平日 9:00~16:30
土曜日 9:00~12:00
(日祝・年末年始を除く)

〒712-8057
倉敷市水島東千鳥町1-60
ホームページ: http://coopreha.jp/
メールアドレス: info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹館 勝人

診療表		コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212]		老健あかね [086-446-6541]	
診療時間	月	火	水	木	金
外来	午前 9:00~12:30 午後 14:30~15:00	〇	〇	〇	〇
器具外来	午後 14:30~15:00	〇	〇	〇	〇
歯科	午後 9:00~16:50	〇	〇	〇	〇
短時間通所リハビリ	9:00~11:00	〇	〇	〇	〇
短期集中健康アップ教室	9:30~11:00	〇	〇	〇	〇
訪問リハビリ	〇	〇	〇	〇	〇
通所リハビリ	9:00~16:00	〇	〇	〇	〇

医療福祉相談・連携室	
相談	平日 9:00~12:00 13:30~16:30
受付時間	土曜日 9:00~12:00
	日・祝日 休み



コープリハビリテーション病院 調理員 別府梨香



老健あかね 看護師 長谷川裕子

新入職員紹介